

# 博士学位論文審査等報告書

審査委員 主査 宮崎 猛

副査 三野 眞布

副査 本杉 日野

1 氏名： 高田 晋史

2 学位の種類： 博士（農学）

3 学位授与の要件： 学位規程第3条第3項該当

4 学位論文題目

中国における村ぐるみ郷村観光経営体の構造と役割に関する研究

5 学位論文の要旨および審査結果の要旨

【学位論文の要旨】

別紙に記載

【論文目録】

別紙に記載

【審査結果の要旨】

中国の農村社会は、戸籍制度による都市と農村の二元社会構造および、村民委員会による集団所有と家族請負制による個別経営を表現した農業の双層経営といった社会主義特有の制度下にある。この中で、中央政府は急激な都市化（農村戸籍の都市戸籍化）政策と、農村の集団経営を重視した政策を強化している。本論文では、都市化地域と中山間地域における郷村観光の拡大に対応した集団経営である村ぐるみ郷村観光経営体（以下、村ぐるみ経営体）の構造と役割について研究した。

まず、中央政府の郷村観光政策は農村政策の一環と位置付けられ、個別経営の農家から集団経営の村ぐるみ経営体を重視する内容に変化してきた。また、村ぐるみ経営体を都市化地域の住民連携型（北京市怀柔区官地村）と企業型（北京市怀柔区北溝村）、中山間地域の共同体型（貴州省雷山県郎徳上寨）の3タイプに分類した（序章、2章）

次に、村民委員会から独立して農家からの農民專業合作社（村ぐるみ経営体）が組織された官地村では、世代交替に対応した農村戸籍の都市戸籍化が進み、若者の市街

地への流出と移住者による農家兼経営とにより、過疎化・高齢化と混住化が同時に進行し、全体として人口は減少している。この中で農村戸籍のみを対象とした村民委員会の自治力は大幅に低下してきており、農家兼と郷村観光の振興のための村ぐるみ経営体の事業と組織が、新旧住民をまとめる役割を果たしていることを明らかにした(3章)。

また農家兼と郷村観光の未発達な北溝村では、村民委員会直営の有限責任会社(村ぐるみ経営体)に、補佐役の村官が社長となり、村官出身地(雲南省大理市)からホテルやレストランの運営主任を登用して、拠点開発による郷村観光を推進している。過疎化により希薄化する地縁・血縁関係に代わり、村ぐるみ経営体における社縁を通じた事実上の都市化(都市戸籍の増加)を図り、農業中心から郷村観光中心の産業構造に転換する役割を果たしていることを明らかにした(4章)。

さらに郎徳上寨では、村民委員会・共産党村支部と同様に村ぐるみ経営体(合作経済組織)も、苗族の伝統的自治組織である鼓社に基づき運営されている。すなわち、鼓社が、入村料の徴収、苗族の入村行事・舞踊・音楽・生活文化などの体験メニューの提供、農家兼への仲介斡旋、工分制に基づく村民全員への賃金分配を行っており、棚田を中心とする自給自足に近い農村生活に侵入する郷村観光をうまく誘導して、全住民の雇用創出、収入増加、伝統文化の保全に貢献していることを明らかにした(5章)。

最後に、都市化地域では住民連携型は社会的統合により、企業型は経済的統合により、それぞれの村ぐるみ経営体による二元社会構造の改革を推進していること、中山間地域の共同体型村ぐるみ経営体は二元社会構造と双層経営を前提とした住民の生活向上を図っていることが示された。

以上本論文は中国における村ぐるみ経営体を分類して、実証分析の中から中国特有の制度である二元社会構造および双層経営上の位置づけを行った研究であり、新知見を有している。

## 6 最終試験の結果の要旨

本論文の内容は、平成26年2月21日13時より、図書館視聴覚室において公開の博士学位論文発表会で発表された。口頭発表後、質疑応答が行われ、分析方法、村ぐるみ経営体の集団経営としての質的差異、二元社会構造と双層経営の内容、村ぐるみ経営体による経済効果など多岐にわたる内容であったが、それぞれ適切に回答した。最終試験の結果としては、審査委員全員一致で合格とした。